

## VI. 啓発運動とボランティア活動



## 1. 市民団体による生活環境保全活動

本市は、昭和 44 年 7 月全国に先がけ「河川をきれいにする都市」を宣言し、都市化とともに悪化した河川の汚濁をとりのぞくべく同年 11 月「藤沢市河川をきれいにする市民の会」が設立され、水質の調査、河川パトロール、鯉の放流、ごみの不法投棄防止看板の設置、河川清掃等実践活動を展開し、河川浄化を推進してきました。

一方、昭和 39 年頃から蚊やハエのいない住みよい町を目指す環境衛生連絡会が地区を中心に組織され、幾度か名称変更のすえ「藤沢市生活環境協議会」として活動を続けてきました。この 2 つの会が発展的解消を図り昭和 57 年 9 月に「藤沢市河川をきれいに住まいの環境を良くする市民の会」として一本化され、平成 7 年度からはさらに積極的に環境問題に取り組むべく、「藤沢市生活環境連絡協議会」と名称を改めました。

この「藤沢市生活環境連絡協議会」は市内 14 地区の生活環境協議会の代表によって組織され、生活環境の改善向上及び環境美化意識の高揚を図ることを目的とし、運動を展開しています。

主な活動として啓発看板の設置、市内一斉の一日清掃、海岸清掃、ごみ処理施設等環境関連施設の見学、また、市と共催で市民大会を開催し、ごみ問題、環境問題について意見や事例発表、講演、大会決議の採択等を行い、広く市民にごみ減量、環境美化の向上を呼びかけています。

市では、補助金を交付し、その活動を援助しています。

生活環境団体育成補助金交付状況（過去 5 年間）

（単位 千円）

年 度	R2	R3	R4	R5	R6
補助金額	2,244	1,933	2,171	2,166	2,158

2. ボランティアの清掃活動

内訳 年度	地区内道路等清掃		ゴミゼロクリーン キャンペーン		一日清掃デー	
	参加団体数	ごみ収集量(kg)	参加団体数	ごみ収集量(kg)	参加人数	ごみ収集量(kg)
H26	761	294,605	84	2,900	18,763	22,840
H27	808	291,990	92	1,820	13,581	23,730
H28	857	308,860	99	1,510	17,321	29,880
H29	885	296,840	100	1,420	16,846	21,280
H30	949	310,510	94	1,370	15,895	21,800
R1	988	315,700	87	1,040	16,049	21,710
R2	1,010	218,330	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止			
R3	1,051	228,170	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止			
R4	1,097	268,570	66	850	13,267	15,890
R5	1,140	259,790	77	810	12,703	19,140
R6	1,175	257,170	79	780	12,548	18,250



落書き対策については、落書き防止ステッカーによる予防活動、パトロールや地域団体との協働による落書き消去活動等を行っております。



### かわ 河川をきれいにする都市宣言

かわ河川は、私達の心の故郷であり、私達の生活に大きな潤いを与えてくれる。

本市域を流下している境川、柏尾川、引地川、目久尻川および小出川等は、流程延長 117 キロメートル、関係市町は 7 市 5 町の広域にまたがっている。

これらの水系は、従来から流域の住民のいこいの場として、また流末は本市ばかりでなく、広く首都圏の住民のレクリエーション地帯として親しまれてきた。

そして私達はきれいな水に恵まれたかわ河川と海とに永い間親しみ、誇りとしてきた。

しかしながら、最近における上部流域からの急激な市街化により、かわ河川は汚濁し新たな社会問題を生み、市民の生活環境の悪化やいこいの場が失われつつある。

このときあたり、藤沢市はかわ河川をきれいにするために国、都、県の強い行政姿勢と関係市町の協力を得て、この解決をはかることが焦眉の急務となっている。

ここに全市民の総力を結集し、かわ河川は都市とともに生きることを実現を目標に私達のまち藤沢市を「かわ河川をきれいにする都市」とすることを宣言する。

昭和 44 年 7 月 22 日

